今月のトピックス

特集 会社訪問 -No.35
有限会社千葉シマダ運輸 様

事業継続に欠かせない「従業員との信頼関係」要望に耳を傾けて職場環境改善を進める

平成 15 年に千葉県八街市に設立以降、関東近郊を輸送エリアにオフィス家具等の輸送や大型スーパー等の物品配送を手がけてきた㈲千葉シマダ運輸（清宮鉄夫代表取締役）。
同社を率いる清宮社長が経営面で最も大事にしているのは「従業員との信頼関係の構築」で、従業員とのコミュニケーションを大切にしながら、従業員にとって働きやすい職場環境づくりを継続してきた。
今後も業界を取り巻く様々な課題の解決に向けて、全社員が一丸となって取り組んでいきたいとしている。

同社車両の前に立つ清宮社長。同社では２トン車から大型トラックまでを保有し、オフィス家具等の配送を手がけている

■ツーマン配送で商品事故を未然に防止 求人専用ホームページ立ち上げ発信力高める

千葉県八街市に本社を構える㈲千葉シマダ運輸は、リース品のオフィス家具や事務機器、家電製品の輸送や設置、組み立て作業のほか、大型スーパーやドラッグストアへの物品配送などを手がける運送会社である。

トラックで輸送したオフィス家具等の据え付けは、同社の場合基本的に手荷役で行っている。リース先での据え付けなどの際には、決してリース品に傷などをつけないように、慎重に運ぶ必要がある。また、オフィス家具や事務機器などは 30 ～ 40kg ほどと、かなりの重量がある。そのため、同社では、輸送中や据え付け中の商品事故防止の観点から、オフィス家具等の輸送の際には基本的にはツーマンで輸送を行い、２人がかりで据え付け作業を行うようにしているという。

重量物の据え付け作業は、ドライバーの体力への負担が大きく、ケガをするリスクの高い作業でもあることから、荷役作業による労働災害事故を未然に防いでいく必要がある。

同社では、新人ドライバーに対する指導の際には、まず入社してから 10 日間～２週間ほどの間、ツーマン配送のトラックに助手として乗務させ、先輩ドライバーたちの荷役作業を間近に見てもらいながら、重量物の運び方に関するレクチャーを受けてもらうようにしている。作業に関するノウハウが身に付いたと判断された段階で、先輩ドライバーとツーマンでの乗務についてもらうようにしている。

「商品に傷を付けることなく、そしてドライバー自身も決して傷つくことなく、オフィス家具等の重量物を手荷役で運ぶためには、高いスキルが要求されます。こうしたスキルは、現場での作業を通じて自分のものにしていく必要があります。新人ドライバーにはまず助手として現場を見てもらい、先輩ドライバーから的確な指導を受けながら、経験を積んでもらうようにしています」（清宮社長）

同社では、早朝４時に出発するドライバーがいる一方、午後から出社して夜遅くまで勤務に就くドライバーもいるため、全てのドライバーが一堂に会する機会が多くない。そうしたことから、同社では出庫時・帰庫時の点呼の際の安全指導に力を入れており、点呼の際には「点呼指示カード」を活用して事故防止への意識高揚を図っている。

清宮　鉄夫　代表取締役

さて、昨年末以降、従来の新型コロナウイルスに比べて感染力の強いオミクロン株による感染拡大が続いている。同社でも、同居している家族が新型コロナウイルスに感染し、濃厚接触者となった関係で一時仕事を休まざるを得なくなったドライバーがこれまで３人発生したという。一方で、トラック輸送は人々の生活維持に欠かすことができないインフラであることから、物流を担う運送事業者にはこれまで以上の感染防止対策が求められている。

オミクロン株の拡大を受け、同社では社内用として抗原検査キットを確保。また、マスク着用の徹底やソーシャルディスタンスの厳守、アルコール消毒の徹底、不要不急の外出自粛など感染防止対策をより強化した。さらに、対面を基本とする点呼では飛沫感染の危険性が高いことから、今後ロボット点呼の導入を検討していきたいとしている。

同社では、ドライバーの確保にも力を注いでいる。求人募集のためのツールとして、同社ではこれまで求人募集サイトを活用していたが、現在はそれを取り止め、昨年７月に自社ホームページとは別に立ち上げた「求人専用ホームページ」の活用に切り替えている。

求人専用ホームページでは、同社への応募を検討している求職者や、トラックドライバーになろうかどうか悩んでいる求職者に、トラック運送業界や同社の魅力をより深く知ってもらうために、同社従業員の日常や様々なイベント風景などをブログで公開。３～４日ごとに情報を更新し、職場の雰囲気を積極的に発信している。

「当社では最終土曜日に、管理者を集めての営業会議を実施しています。ドライバーの確保は当社にとっても大きな課題となっており、営業会議の中でも『高校新卒者採用への取り組みを進めるべき』『社員寮を整備して、地方から人材を集めてはどうか』など、様々なアイデア

オフィス家具等の配送の際には、荷役作業時の商品事故を防止する観点からツーマン配送を行う

清宮社長は従業員の声に積極的に耳を傾け、要望を実現させることで、従業員との信頼関係構築に繋げている

安全性の高い輸送サービスの提供を目指し、同社では出庫時・帰庫時の点呼に力を入れている

が出されています。求人専用ホームページはこうしたアイデアから生み出されたもので、トラック運送業界や当社の魅力をもっと多くの方々に知っていただきたいとの思いから立ち上げました。ホームページ開設から半年ほど経ちましたが、求人への応募は徐々に増えてきています」（同）

運送事業者が将来にわたって事業を継続していくためには、従業員の離職を防ぐための取り組みの強化も欠かすことはできない。

同社では、入社以来 20 年以上勤務している従業員が少なくないという。清宮社長に従業員定着率向上の秘訣を伺ったところ、「ドライバーの意見や要望などに耳を傾け、その実現に向けて経営者として真剣に取り組んでいくことが大切だ」と語った。

「従業員との信頼関係を高めていくとともに、従業員にとって働きやすい、居心地のいい会社であり続けることができれば、自ら去っていくような従業員は少なくなるのではないかと感じています。『洗車機を導入してほしい』『トラック用カーナビゲーションシステムの導入を検討してほしい』『休みを取りやすくしてほしい』など、従業員から寄せられる意見や要望は様々ですが、まずは従業員の声を聞き、真摯に受け止め、実現できるものについては実現させ、職場環境の改善に繋げていく。そうした取り組みを着実に積み重ね、従業員との信頼関係を良好なものにし続けていくことで、従業員が当社に対して満足感を抱きながら働き続けてくれるようになるのではないでしょうか」（同）

清宮社長は現在、成田、佐倉、八街、印西、白井、富里の各市と印旛郡の各町を管轄する印旛支部の支部長を務めている。

昨年６月には、印旛支部のエリア内である、八街市において、飲酒したドライバーが運転する自家用トラックが小学生の列に突っ込み、死傷者が出るという痛ましい事故が発生した。印旛支部では今年度、地域の子どもたちを悲惨な交通事故から守りたいとの思いから、八街市と成田市の教育委員会を訪れ、小学校低学年の子どもたちへの交通安全グッズの贈呈を行った。

「地域の子どもたちを交通事故から守ることは、道路という公共の財産を使って事業を営んでいるトラック運送事業者にとっての責務ではないでしょうか。今後も支部内の会員事業者に対し、交通事故防止対策の強化を訴え続けていきたいと考えています」（同）

さて、清宮社長は若かりし頃、美容師を目指していたという。10 代後半で美容学校を卒業後、代官山や錦糸町、青山、渋谷などで美容師として活躍したという。

その後、清宮社長は一念発起し、33 歳でトラックドライバーの道に入った。その時に入社した運送会社が、埼玉県加須市に本社を置いていた㈱シマダ運輸であった。業界未経験でトラックの世界に飛び込んだ清宮社長は必死に働いて業界経験を積み重ね、やがてシマダ運輸の取締役営業本部長にまで登り詰めた。

平成 15 年、シマダ運輸が営業を終えることになり、当時 48 歳だった清宮社長は当時八街市内の別の場所にあったシマダ運輸千葉営業所を譲り受ける形で千葉シマダ運輸を設立し、社長に就任。設立当初は保有車両数 30 台ほどの規模だったが、設立以来徐々に業容を拡大。それを受けて、かつて清宮社長の妻の実家があった現在の場所に本社を移転し、営業を続けてきた。

同社が営業を続けていく中において、苦境に立たされたこともあったという。そのうちのひとつが、令和元年に千葉県を襲った台風 15 号であった。同社営業所も停電に見舞われ、自家給油設備が使用できなくなった。

同社では、被災時の経験を踏まえ、自然災害発生時にもトラック輸送を維持していくための備えを強化。停電になっても事業が継続できるようにと、営業所の屋根に太陽電池パネルを取り付けたほか、同社敷地内に蓄電池を設置するなどの対策を行った。

清宮社長に、今後に向けての同社の課題を伺うと、「荷主との運賃値上げ交渉」と「人材確保対策の強化」を挙げた。

「運賃値上げ交渉と人材確保は、運送事業者にとっては難しい問題だと思います。しかし、こうした課題を解決していかなければ、業界の未来はないと感じています。地域の経済と人々の暮らしを支えるトラック運送業界が引き続き公共交通機関としての重責を担い続けていくために、当社としても業界を取り巻く諸課題の解決に向けて、全社員が一丸となって果敢に取り組んでまいりたいと考えております」（同）

ホットにゅーす

■以前から抱いていた「オートバイへの憧れ」50 代で大型二輪免許を取得し夢を叶える

清宮社長は休日になると、オートバイにまたがってツーリングに出ることが多いという。

若かった頃からオートバイへの憧れはあったそうだが、お金に余裕がなく、また仕事に打ち込んでいたことからオートバイを楽しむための暇もなかったため、半ば夢をあきらめた状態であったという。50 歳を過ぎてから大型二輪免許を取得、長年憧れていたハーレーダビッドソンを自分のものにすることができた。

現在清宮社長はツーリングクラブに所属し、月に１回程度、箱根や伊豆、房総半島などを走行している。

休日には愛車のハーレーダビッドソンにまたがり、仲間たちとツーリングを楽しんでいる

企業プロフィール

有限会社千葉シマダ運輸

代表取締役　清宮　鉄夫
本社　千葉県八街市滝台 1385-2
従業員　56 人（ドライバー 39 人）
台数　43 台